



洋学文庫
 文庫8
 B 88

四月末 伊呂波 外國入刀及建和

伊呂波 中代目

伊呂波秘書

法政院振中華
 中代目



薩摩 門西 官渡 常日 河内 三月 初日 校長 分海 公行 多約

小水... 薩摩

薩摩

二月六日辰時

メイジヨル人方事... 公使館... 薩摩...

二月七日巳時

二月八日午時

二月九日未時... 薩摩...

ガニル... 薩摩...

三月... 薩摩

水戸 通 知 附 史 依 山 湯 左 因 折 洋 佐 北

大馬子... 薩摩...

薩摩... 薩摩...

共... 薩摩

一... 薩摩

一... 薩摩

二月... 薩摩

二月... 薩摩

三月... 薩摩

口グズルキ子ツヒンリ入カキニシシ地大ホテ
 凡述出乃同和ノ馬車ニシテ坊ノ事ホシハ内
 尾馬又来テハ述帰リ夫ノ人カキニシキ子ツヒンリ
 此述産産述 在自日有帰ハ在自日有述
 去冬ノ十月廿三日辰未申時同於宿下
 英人ニ傷ケル者有リ 辰未申時同於宿下
 今ノ及川河ノ通由平利 辰未申時同於宿下
 由更河ノ通由平利 辰未申時同於宿下
 右此ノ事カ有リトシテ由政ノ官ニ傷ケル事
 辱ニルカ成ル事又又府藩縣官内事ニ
 述ハ此述ニシテ由政ノ官ニ傷ケル事

辛未三月

大政官

重慶府藩

士族

此後壯七

右ノ者作去冬藩由河ノ事ノ中ノ事人
 一月由河ノ通由平利 辰未申時同於宿下
 由更河ノ通由平利 辰未申時同於宿下
 右此ノ事カ有リトシテ由政ノ官ニ傷ケル事
 辱ニルカ成ル事又又府藩縣官内事ニ
 述ハ此述ニシテ由政ノ官ニ傷ケル事

福下多之通りりはるるそは流乞すゆに流
河國厚に志成りとも不敵は其業在始末不
成有唐人三十三紋飛

并築屋屋年并年并 一と既乞坊

山下孔在年とととと 惣掃坊衣

右之志成國若藩是河友以年同送昇

指多之通りり初大皇も後中歴教所

英人りニガ知そ人婦人にと換り士成と

海流は細りこと元後彼とと新果有及後

之りも友以年同送坊一はと海と海と

流河海へあつて 操力りニグはの成有る

院 河國厚に志成りとも不敵は其業在始末
成有唐人三十三紋飛

作主事屋屋元并 一水高河年

口 在年并 一水高河年

右之志成國若藩是河友以年同送昇

指多之通りり初大皇も後中歴教所

英人りニガ知そ人婦人にと換り士成と

海流は細りこと元後彼とと新果有及後

之りも友以年同送坊一はと海と海と

流河海へあつて 操力りニグはの成有る

在る者後村に在る後村及於在因は日本
橋を過りし初大なる由後世に於ける美人
父ラス入る人婦人との繋ぎし物しとの
消遣に細くしては後世に於ける美人は
衣及髪云々は因を致しし人他人
海と消去しし由田沼一ありて捨り又
ラス入る人の世有るに於て 汗國守り美成
りともふ敵は美成に於て不他は丹麻人
らりと准流拾集

四月三日成徳泊

ローバハウスボリーリニホーリに接し居る力運を

初に舟より河原を遊ばし右岸に遊ばし
ちりし舟を居り

由馬に遊ばし其後美成に遊ばし
美成人を居るに於ては後世に於ける

四月廿日美成泊

ガデーニ揚子遊ばし其後美成に遊ばし
カントマニ大ホテルに遊ばし其後美成に

四月廿六日美成泊

向難見度ハハーダに遊ばし
四月廿七日美成泊

四月八日卯年 音書 新島泊
今日 獲送 不 公

四月九日辰時 音書 新島泊

任史 史 新島泊

任史 史 音書 新島泊

任史 史 音書 新島泊

任史 史 音書 新島泊

任史 史 音書 新島泊

任史 史 音書 新島泊

任史 史 音書 新島泊

方は馬の指馬を海に放り置かば
カニドマニ海牙の物も海に放り置かば
船難夫も海に放り置かば
ニル迄おのりて送るべき

四月十日 辰時 音書

四月十一日 辰時 音書 新島泊

ウエーダニ海牙大玉テニ送るべき

四月十二日 辰時 音書 新島泊

おのりおのりて送るべき

己卯十二月廿三日申時

己卯十二月廿四日有晴高青出船泊

六ノマレクイニシウルト出船泊
イニシウルトより此迄は船送

己卯十二月廿五日晴

カテ儿海流才逆例し通出船送

己卯十二月廿六日晴

己卯十二月廿七日有晴高青出船泊

昨六日有晴高青出船泊
左へ通 用船送

私伝今高青高青の如行病を証候

押見も出船しては時之云候らる川

美作もは候少くは候候らる

出船しては候候は候中候

己卯十二月

行候

ホーリンホーリン人方車々々

ホーリンホーリン方船泊因り

馬車船々々々々々々々々々

馬車船々々々々々々々々々

馬車船々々

己卯十二月廿八日有晴高青泊

大寺高青出船泊 北田大助教

ホイマブルク路を度々探検一年此の爲
定所ニテ同多を述ゆり此迄の程送

二月十九日丙亥明

二月廿日卯酉雨高雷おぬ泊

メイジヨルの途新去テ凡述書テ了時ト
出ゆり午舟を洋渡送

中食多ク二月廿一日辰早舟高雷高雷泊

ガテリリー海地速船と述ゆり渡送

フルヘツキ共同入船月畔ウーダ凡可瑞

月全同此夜出の如く船中泊留過了田安

出の程を告テ出ゆり此迄の程送

二月廿二日己卯舟を西門門地寄

二月廿三日午酉高雷おぬ泊

ガロルヒニヨシ入船丁今新送人カ車

出ゆりガロルヒ方渡送おぬ泊

二月廿四日未申高雷おぬ泊

本夜見渡おぬ泊

去来月夜新去テ凡述メイジヨル途渡送

と云々し陸地速船を在田安人送取

二月廿五日申酉高雷おぬ泊

二月廿六日酉酉高雷おぬ泊

カテリリー海地速船を洋渡送

此夜...
...
...

己卯月廿七日戌時...

ローバホテル近知...

己卯月廿八日...

己卯月廿九日...

カニド...
...

己卯月廿一日...

ローバホニル...

...

己卯月廿一日...

...

...

...

...

己卯月廿一日...

...

...

高麗の由りては年々を去るに及ぶに海濱に
之習ふ由りては年々を去るに及ぶに海濱に

八月廿日 日暮し 吹入る 水音

八月廿日 午雨 音音 音音

ハウスノグ子ルボルツキ子ツヒニツ水音 音音
日ノ音音 音音 音音 ハウスノ音音 音音

八月廿日 日暮し 音音 音音

ホイマニツイニシニルド音音 音音 音音
マニツイニシニルド音音 音音 音音

八月廿七日 中音音 音音

八月廿日 音音 音音 音音

カローマイヨ音音 音音 音音 音音 音音
カローマイヨ音音 音音 音音 音音 音音

八月廿日 音音 音音 音音

音音 音音 音音 音音 音音 音音
音音 音音 音音 音音 音音 音音

音音 音音 音音 音音 音音 音音
音音 音音 音音 音音 音音 音音

音音 音音 音音 音音 音音 音音
音音 音音 音音 音音 音音 音音

音音 音音 音音 音音 音音 音音
音音 音音 音音 音音 音音 音音

一人 一人 一人 一人 一人 一人

一人 一人 一人 一人 一人 一人

巨勢 月
物 音音
音音 音音
音音 音音
音音 音音

一人 一泊水北日文 豆食水日文

一馬文 一泊水日文 豆粥水日文

本通人收書板表の月後海の事

了也 辛未 六月九日 西條

權大史長光 經大史女忠 叔後長光

在宣下筆事 本通人作并るる事

九月九日 西條

八月十日 壬午 邪書

八月十日 壬午 高書 邪書

本後及後高書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

八月十日 乙未 高書 邪書

青野所述歩行の如く此處に渡送

又八月廿日有明高橋出船泊

フルベツキウーデル中庭下坂橋高き多き下
此の渡送渡送一舟入イニシエド九階松之
馬場迄之舟あり人あり事々々此の渡送舟
渡送

又八月廿日有明高橋泊

ホイマールリホニル近出舟渡送之舟今之秋
十字屋美堂の舟也 舟也

又八月廿日有明高橋泊

又八月廿日有明高橋泊

又八月廿日有明高橋泊

ウーダールホニル馬場高き舟の舟人船渡送舟
此の渡送一舟入ホルツワニツヒニツ海舟号
此の舟の渡送渡送

又八月廿日有明高橋泊

又八月廿日有明高橋泊

イニシエド中庭下坂橋高き多き下
舟入此舟近出舟の渡送渡送

高き舟の舟人船渡送舟
源三舟の舟人船渡送舟
舟渡送舟人

八月廿七日辰時高橋泊

ローバ末テ儿述也仍此以修送

八月廿八日巳時明修香

八月廿九日午時高橋泊

カロー物以之修送及早修所川橋を修送

也仍此以修送一ボ一リン芝高橋泊

乃修及橋上之末テ儿述也仍此以修送

今之修也物以之修送及早修所川橋を修送

之修也物以之修送一ボ一リン芝高橋泊

カロー物以之修送及早修所川橋を修送

八月廿九日辰時高橋泊

カンドマニも今修送自グデリーイ岩和

近人カ車より也仍此以修送

六月廿日申酉時修香

六月廿一日酉時高橋泊

今之修也物以之修送一ボ一リン芝高橋泊

也仍此以修送一ボ一リン芝高橋泊

今之修也物以之修送一ボ一リン芝高橋泊

也仍此以修送一ボ一リン芝高橋泊

也仍此以修送一ボ一リン芝高橋泊

誰形之通是酒多之德也其部乃也
 從在至府也屬之八於日府海像本九也
 也之八八存之河去乃之矣
 全王戶移住屆出式

府族

某藩

縣屆

官名

何之

誰

父

誰

母 誰
 妻 誰
 幾男
 幾女 誰
 右何年何月何日移住仕候
 辛未月日 某住所 何之誰印
 寄留人届書式

府官名

某藩

縣族屬

何之誰

自于支月何々付寄留

父

誰

母

誰

妻

誰

幾男

誰

幾女

誰

家令

誰

從者

誰

婢

誰

合 男何人
女何人

辛未月日

某住所

何之誰印

家令從者僕婢書具

府

某藩 官轄

縣

某國郡某村丁

自于支月何々付寄留

何之誰

右傭主

某住所 何之誰印

イニシエルド様候所より力違去申入自江所寄
進出の御事等々御座候事由申上候事由
水長文合意の方次第、此等御事、大に御座候事

Handwritten notes at the top of the right page, including the characters "三" and "年".

ホルワリニツヒニリ 持内法所是生矣以々
如以波法獲送一 和取法事保及法書大
代者之入之夏月分官法事保及法書大
保分下之入之夏月分官法事保及法書大
取分下之入之夏月分官法事保及法書大

六月二日戌時高橋夕引

メイジヨル 初級力込入取了至午時是為大所進
如以役人カ東港送一 在通津海如以
飲食有之 法紙書藏以之入之夏月分官法事保及法書大
如以役人カ東港送一 在通津海如以
飲食有之 法紙書藏以之入之夏月分官法事保及法書大

了如事 辛未六月

六月四日亥時津番

け為主簿有ヨリ 御布告之趣達之通戸籍人
負調貳通内壹通者調印壹通者和廿每印之
右相認出勤之上取締 差出置

六月八日 時高橋夕引

三籍人カ 調書 取分下之入之夏月分官法事保及法書大
如以役人カ東港送一 在通津海如以
飲食有之 法紙書藏以之入之夏月分官法事保及法書大
メイジヨル 初級力込入取了至午時是為大所進
如以役人カ東港送一 在通津海如以
飲食有之 法紙書藏以之入之夏月分官法事保及法書大

上野屋藏板

Handwritten notes at the top of the left page, including the characters "三" and "年".

六月六日也其音高泊

カロー大列滿部内大死教解律ヤニドア二
方々動去テ凡述入カ事々々也凡此此此此此
イニシエドホト大ホテ凡々降乃作也凡合
事々々為衆獲送

六月七日其音高泊

マイヨも南五ノ一我月舟高入クラツト
方々動去テ凡述入カ事々々也凡此此此此此
イニシエドホト大ホテ凡々降乃作也凡合
事々々為衆獲送

六月八日卯時獲送音高泊

方々動去テ凡述入カ事々々也凡此此此此此

六月九日辰時音高泊

マイヨも南五ノ一我月舟高入クラツト
方々動去テ凡述入カ事々々也凡此此此此此

六月十日巳時明々如音

六月十一日午時音高泊

六月十二日未時音高泊

カロー大列滿部内大死教解律ヤニドア二
方々動去テ凡述入カ事々々也凡此此此此此
イニシエドホト大ホテ凡々降乃作也凡合
事々々為衆獲送

本因本
本因本
本因本

本因本
本因本
本因本

本因本
本因本
本因本

本因本

官至号事

六月八日也信高唐泊以川

ノルベツキウエーダ儿所成泊尔号也

此は信高唐

六月九日矣信明之信高

六月十日也信高唐泊

ホーリカニドマニローバ十二世最出也乃信

此は信高唐

六月十一日信高唐泊

ホーリカニ信高唐の信高唐七世天下信高唐

お屋及出也乃信高唐の信高唐乃信高唐

是乃信高唐一泊内也乃信高唐

大久保信高唐乃信高唐乃信高唐

信高唐乃信高唐乃信高唐乃信高唐

六月十日也信高唐泊

六月十一日也信高唐泊

今日也信高唐乃信高唐乃信高唐

与人也信高唐乃信高唐乃信高唐

是乃信高唐乃信高唐乃信高唐

信高唐乃信高唐乃信高唐乃信高唐

六月十日也信高唐泊

六月十一日也信高唐泊

布衣卜筮術とて一書たり也

服力之儀女使上何れ何れ通て経酒會

系之儀多之入其長負服力之儀礼式

之儀礼式古の儀に於て之儀の儀也

三十一

大學

舞衣長 中

六月廿五日 出所礼 何れ通

存上云云 存中 隆酒會とて一書たり也

長之儀礼式 長川井久人 何れ通て経酒會

而御守一乃之長是也 何れ通て経酒會

六月廿六日 同廿七日 何れ通て経酒會

六月廿八日 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

六月廿九日 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

何れ通て経酒會 何れ通て経酒會

七月廿四日 出使館

七月廿五日 出使館

七月廿六日 出使館

七月廿七日 出使館

七月廿八日 出使館

七月廿九日 出使館

七月三十日 出使館

八月一日 出使館

八月二日 出使館

八月三日 出使館

八月四日 出使館

八月五日 出使館

八月六日 出使館

八月七日 出使館

八月八日 出使館

八月九日 出使館

有省正以民之依南族不遠有以啓之
十之始也高書向中明也古守守
而亦有以依守中一也

七月廿四日 高書 大乃保書嚴
有也守長或守守守守守守

七月廿七日 高書 大乃保書嚴

明日守守守守守守守守守守守守
今日守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守

大河守守守守

守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守

八月六日守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守

八月九日守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守守守

八月廿日守守守守守守守守

元中元年庚申年庚申

日七午一

元中元年庚申

父中元元年

明宗元年庚申二月 大内少輔藤原成實

十三年藤原成實

二年藤原成實

父大内少輔藤原成實

日七午一

明宗元年庚申 母 藤原

中元元年庚申 日七午一

成首

成老

成章

成實

成良

福言

文政九年庚申七月廿一日

元中元年庚申 書 友

元中元年庚申 日七午一

日七午一

長女 沛

日九

次女 一

從父兄

母 子次

日七午一

父子兄弟男

才方何為係八歲質人

口二千五

名榜之言學在後 書 情

年方之二女慶為三丁年 口二千二

已月來少之書

長男之何為年以年

口 口

甲來市之若小樓社

有十支日 男六人 女十人

有通一海方一書局

自之甲來市之長副之長於也

甲來市之八樓社

之長市之何所 方去檢區

清田之友一

副之長日之友

中村之何所

手之白澤平一町役

水之何所之信

十月十日 河入海島之町役之友

長之何所之何所之通 用之

の記号をとりしこれ楷書の子を辨むる
了よりく真之をいりく行の字より
草也一辨名を辨むるも真真
と行真之を以て行の字より
草ありり草よありても又く同
我初の楷字ありありし波九糸の月
寂下の草ありありし草の字より
と音と草の字ありありし草の字より
ふの草の字ありありし草の字より
と音と草の字ありありし草の字より
波と音と草の字ありありし草の字より

いふら長は波に化ほ係

我初の古字より横文字と書あり
也大陀意日等の法はまをせて門の
字と用ひて字辨の村とあり
音と音とたといハ統統と用ひて字
辨此字と長といふ法はまをせて
この字より草の字ありありし草の字より
ちをてへこの字に化ほ係
と上と止ち無り利ぬ叙る留と遠
あ和か和よ與たたれれる曾つ

一文字の方より一文字も九段あり
二二三のちし書ちししひ私漢もも
古く傳ふるやまきくヒトツトソふべきと
略の短や一是又句境の聲と長長
ゆるり

収稱ちよ奈ら良む哉らう平
お為の乃れ旅く久やせま未
け計ふ不こ巴こ今江江は衣
て天あ安さたき数ゆ由め女
又義し之名恵ひ比も毛世世
すす

京形一字のと並事一海きんけり
よ於てはし字をと專方畔の字は法とす
甚んたは先字別な物くいしく京
は勝るる一聚也といひてとる
刻一集字のいけり一悉日をも家
一專か畔の字は法とす一専事ら林文
よ卒字の聲けり一アイウヘフカキ
クケツの致は是ちり古きよラント
キシヤの字けり一卒言んけし卒字の
聲の字のと一卒字一卒字を重む
とてて字のしするやうとあ

ちりりとはと合感とまづ〜きりば系
 の字も世例として〜キトヤトウの
 字としてまづの上けて〜合感の程を
 推尋〜其入あは〜事〜も
 至像もこの〜け早や〜字の月
 と世に〜聲〜
 一也中〜世〜
 徳衣きひ〜の月よ之元院殿の
 乃新定長師の凡秘抄あ〜も
 後人〜辭彙とあ〜附合〜

〜〜物行り〜其西とまづ〜の
 字あは〜心だ〜字と書〜
 是彼つ〜字の〜文字のや〜形別
 ヒトツ〜と上〜
 男〜
 け〜と〜
 一の字の形〜
 の張も〜

片假名のつらけは

僧梵字のつらけを本假名に
 うひよもせんのつらけを秘字せしむるは

所_レ心_レち_レつ_レ事_一 行ハ_レ既_レ文_レに
 也_レ書_レて_レ未_レ朱_レの_レ行_レち_レり_レと_レも_レ刻
 舟_レの_レ心_レも_レ似_レて_レ一_レ 本_レは_レ未_レ朱_レの_レ心_レも_レ似_レて_レ一_レ
 作_レの_レ事_レは_レ既_レ文_レに_レ法_レ年_レよ_レあ_レく
 天_レ台_レよ_レ法_レ年_レと_レ款_レも_レあ_レく_レ是_レ益_レと
 有_レ略_レして_レ編_レ字_レあ_レと_レち_レ未_レ朱_レの_レ心_レも_レ似_レて_レ一_レ
 つ_レは_レ意_レ口_レそ_レ之_レ家_レの_レ十_レ七_レの_レ應_レ多_レ又_レ有_レ
 一_レ此_レを_レも_レと_レも_レ其_レ長_レ深_レ并_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 一_レ一_レ 芥_レよ_レ鳥_レと_レ加_レつ_レて_レ其_レ長_レ深_レと
 一_レ角_レ角_レと_レ既_レ文_レに_レ法_レ年_レよ_レあ_レく
 一_レ一_レ 從_レて_レ一_レ公_レと_レ其_レ長_レ深_レ比_レと_レ其_レ長_レ深_レと

ま_レら_レの_レ既_レ文_レに_レ法_レ年_レよ_レあ_レく
 全_レ解_レ有_レ志_レも_レ真_レ矣_レち_レら_レと_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 真_レ矣_レち_レら_レと_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 智_レの_レ別_レよ_レ四_レ字_レの_レ名_レ稱_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 氏_レハ_レ在_レら_レつ_レ公_レ長_レ深_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 假_レ名_レ有_レシ_レト_レ其_レ長_レ深_レと
 一_レ一_レ 我_レ規_レの_レ名_レは_レ鬼_レと_レ其_レ長_レ深_レと
 一_レ一_レ 後_レと_レ其_レ長_レ深_レと

こと澄しす子子十奈二良ム年少字井田
 け字の仲益ヲ首テ田ト書タルヲ
 澄しことノ之才於古字ありと略し
 澄しことククヤ也マ末ケ気けし字あり書
 こと澄しすフ不コ古工江テ天ア阿
 ササハ草多ク艸ト書ノ首キ也
 又由メ女ニ三三之ニ江始メ出ルこと
 こと其字の形と女楚目ニ音と足
 是も楚字家法多しひかりと
 是風と書ても同くサノ音のつ

一一比毛セ世ス須

在外のものは比傳有し不物と
 文政十一年三月廿六日家く是ト
 アル
 在る末し主は草名も昭若す
 比とて天候は比次主家
 水字も草名も極例中用書次也知
 由屋間中候分ノ役也知と共ニ其
 雲云傳院極中用之と云ハ其
 高麗唐元年八月年書名移次内
 子江の會同年月日字自家一

依り在る事乃其善なる事なり其善なる事

聖徳院御清書出流致書云云
文在

清風秋陽也

一依りて平し

一依りて平し

清風秋陽也

一依りて平し

一依りて平し

清風秋陽也

一依りて平し

一依りて平し

清風秋陽也

一依りて平し

一依りて平し

教訓は先之教に在りて

時亦此に在りて其教に在りて

其教に在りて其教に在りて

其教に在りて其教に在りて

其教に在りて其教に在りて

青
雲
賦
反

青
雲
賦
本



